

参考資料 (フォーラム資料)

小川高校 「ふるさと」創生プロジェクト



埼玉県立小川高等学校

現況と課題

人口減少・・・小川町人口H8:3万8千人 →H30:3万人
 統廃合の危機・・・生徒数H8:9660人 →H30:5900人

取組

学校が地域創生に積極的に関わり、地域の人々をつなぎ、未来を作る
 「地域から学び、地域に貢献する」学校づくり
→地域行事を、中心となって提案、運営

地域への受着・誇りを育む教育
 地域の活性化、魅力ある町づくり

地域の文化・伝統への再注目・地域の課題への問題意識
 未来を切り開く力の育成

6月・7月 「七夕まつり」リリック音楽祭 他各種イベント 司会 運営補助
 対象：放送部 主催：小川町

5月 「嵐山 史跡の博物館ボランティア」ティーチャー
 対象：全学年 希望者 内容：入場した小学生に史跡の説明

11月 「小川小との交流事業」
 対象：希望者 内容：児童と学校行事の進行

12月 「小川和紙マラソン 運営補助」
 対象：全学年 希望者 内容：パレー、路上部、総道部 参加者：約4000人

10月～1月 「小川和紙普及活動」
 対象：3年 10～30名 (聴学選択者) 場所：小川町和紙体験学習センター

4月～8月 「カフェ モザート メニュー開発」
 対象：全学年・希望者 共催：小川町

通年 「介護施設、元氣プラザ等への 出前音楽発表会」
 対象：音楽部 共催：小川町

通年 「防災無線 青バトのアナウンス」
 対象：放送部 主催：小川町・小川警察署

現況と課題

人口減少・・・小川町人口平成8年:約3万8千人 →20年後→平成30年:約3万人
 本校の生徒数減・・・生徒数平成8年:9660人 →20年後→平成30年:5900人

●地域の活性化は、地域の伝統校の存続とも深く関連
 ●学校と地域が共通認識を持って、創生に取り組む必要性

取組

学校が地域創生に積極的に関わり、地域の人々をつなぎ、未来を作る
 「地域から学び、地域に貢献する」学校づくり
→地域行事を、中心となって提案、運営

地域への受着・誇りを育む教育
 地域の活性化、魅力ある町づくり

地域の文化・伝統への再注目・地域の課題への問題意識
 未来を切り開く力の育成

小川町との包括連携協定 地域行事を、中心となって提案、運営

行政との連携が不可欠



平成30年7月19日、本校は、小川町と「連携協力に関する包括協定」を締結。締結式は小川町長公室で執り行われ、撮影・取材にはマスコミのほかにも本校放送部も加わっている。

通年 「防災無線 青バトのアナウンス」



4月・5月 放送部が防犯防災アナウンスを作成。
 現在、小川町内を巡回する青色パトロールカーは、日々、振り込め詐欺等の犯罪被害防止を促すアナウンスを流している。
 今年度からこれは、小川高校生の声である。

通年 「防災無線 青バトのアナウンス」



平成30年8月16日、放送部は、小川警察署での感謝状贈呈式に出席。
 その後、警察署の方と一緒に、近隣スーパーで「振り込め詐欺等の犯罪被害防止キャンペーン」に参加。
 1年間で9億円にも上るといふ県内の振り込め詐欺被害。このような犯罪の撲滅に何と貢献したいと、この日はアナウンスではなく、生の声で、町民の方に被害に遭わないための注意点を訴えた。

6月・7月
「七夕まつり リリック音楽祭他各種イベント 司会 運営補助」
 対象：バレエボール部 放送部 等 主催：小川町



本校は、小川町で開催される多くの地域行事で、司会や運営補助を任されている。平成30年7月28日(土)～29日(土)は小川町の七夕祭り。

70年の歴史を持つ小川町内挙げてのお祭りも、司会進行は本校生徒である。

また、優美な飾りつけはバレエボール部が協力した。

6月・7月
「七夕まつり リリック音楽祭他各種イベント 司会 運営補助」
 対象：バレエボール部 放送部 等 主催：小川町



今年は、小川町商工会青年部が創設されて50年目であった。記念式典が開催され、会場には多くの屋台が並び、歌やダンスなどの催しが行われた。

メインイベントは和紙で作ったスカイランタンの打ち上げ。そこで、本校の有志9名がスカイランタンの作成に協力した。

6月・7月
「七夕まつり リリック音楽祭他各種イベント 司会 運営補助」
 対象：バレエボール部 放送部 等 主催：小川町



小川町の夜空にスカイランタンが舞い、大勢の見物客の皆さんから歓声が上がった。

4月～8月
「カフェ モザート メニュー開発」
 対象：全学年・希望者 共催：小川町



小川小学校下里分校の跡地は、今年4月からカフェ「モザート」に生まれ変わった。本校生徒有志の女子10名は、半年間、こちらの商品開発を行ってきた。

4月～8月
「カフェ モザート メニュー開発」
 対象：全学年・希望者 共催：小川町



平成30年8月1日、生徒の開発したメニューのお披露目。現地には、町役場の方や新聞社の方ほかに、県教育局の方々も視察に来ており大賑わいである。

もちろん、地元のお客さんもひっきりなしにご来店くださり、ヘルシーなおカラダかけご飯である「00丼」は早々に売り切れとなった。

10月～1月
「小川和紙普及活動」
 対象：3年 10～30名(総学選択者)等
 場所：小川町和紙体験学習センター



総合的な学習の時間の選択科目「くらしと科学」では、古今東西の紙の歴史を学ぶ。その中で、ユネスコ無形文化遺産である「和紙漉き」を体験し、和紙の可能性について考える。今年も授業外でも、和紙普及活動としてさまざまな取組を行った。

10月～1月
「小川和紙普及活動」
 対象：3年 10～30名(総学選択者)等
 場所：小川町和紙体験学習センター



平成30年11月24日(土)、25日(日)、埼玉伝統工芸会館にて小川町主催による「小川和紙フェスティバル」が開催。今年で第3回となるこの祭典に、本年から本校書道部も参加して、小川和紙の普及に貢献している。

10月～1月
「小川和紙普及活動」
 対象：3年 10～30名(総学選択者)等
 場所：小川町和紙体験学習センター



会場には、絵画や小物、アクセサリなど、小川和紙の様々な可能性が展示物として並ぶ。本校のブースにも書道に興味のある方々が多く来場し、生徒の腕前を称賛してくださっている。生徒も小川町が誇る伝統工芸の普及活動の一端を担えたことに、大きな達成感を味わうことができた。

10月～1月
「小川和紙普及活動」
 対象：3年 10～30名（総学選択者）等
 場所：小川町和紙体験学習センター



本年度から、初任教員の研修にも和紙に関するものを導入。
 これは、学校から自動車まで約5分のところにある埼玉伝統工芸会館での研修風景。

11月
「小川小との交流事業」
 対象：希望者 内容：児童と学校行事の進行



平成30年11月29日（木）、本校生徒有志30名が小川小学校との交流事業に参加。
 午前中は持久走大会の補助。
 午後はグループに分かれて授業の補助を行う。

11月
「小川小との交流事業」
 対象：希望者 内容：児童と学校行事の進行



本校生徒からは、「小学生は素直で本当にかわいい」「機会があればまた来たい」などの声が出ている。
 今回関わった小学生たちが数年後、今度は高校生となってこの事業に参加するという循環を目指している。

12月
「小川和紙マラソン 運営補助」
 対象：バレー部・陸上部・剣道部 参加者：約4000人



平成30年12月9日（日）、第26回小川和紙マラソン大会が開催。
 4000名を超えるエントリーがあり、本校からも陸上部4名と事務部長が参加。
 陸上部、剣道部、バレー部、放送部はスタッフとして運営補助した。

今年度からメイン司会、実況は放送部が担当。

12月
「小川和紙マラソン 運営補助」
 対象：バレー部・陸上部・剣道部 参加者：約4000人



ゴール地点に、本校の剣道部と陸上部が走行タイムの記録係として配置。
 会場では、バレーボール部が観客の誘導係を務めた。

成果

プロジェクトにおける様々な経験を通し、生徒に地域の課題を意識させ、これからの未来を切り開く能力を育成することができた。

高校生が企画段階から参画することで、地域行事に新風を吹き込み、町の内外に、世代を超えて町の魅力をアピールすることができた。

課題

現在は一部の生徒による取組となっている。今後は、生徒全員が取り組めるような仕組みを考案していく。

現在取り扱っている課題は表面的な課題のみである。町の行政との緊密な関係を生かし、生徒にさらに掘り下げた地域課題を発見させ、議論を重ねながら解決策を見出すような取組を加える。

町で唯一の高校である本校が、町の中核校としてどう機能していくべきかさらに検討を重ねる。

埼玉県立庄和高等学校

庄和の未来を共に創る「地域創生」物語

～庄和高校の取り組み～

- 4月 庄和商工会へ協力依頼
- 5月 春日部市へ協力依頼
庄和商工会との課題共有会
- 6月 かすかべ未来研究所からの情報提供
課題設定
- 7月 進捗状況中間報告会
- 8月 市場調査・アンケート活動等
- 9月 文化祭での中間発表
- 11月 庄和商工会へのプレゼンテーション（3年生）
- 12月 庄和商工会へのプレゼンテーション
（2・3年生）

～参加生徒募集～

4月に2・3年生を対象にプロジェクト参加者を募集
3年生 27名
2年生 8名
が参加してくれることになりました。

～活動の流れ～

- 4月 庄和商工会へ協力依頼
- 5月 春日部市へ協力依頼
庄和商工会との課題共有会



庄和商工会の活動内容を教えていただき、庄和地域が抱える問題・課題を知りました。



生徒からも庄和商工会に質問をしました。

～活動の流れ～

- 6月 かすかべ未来研究所からの情報提供
課題設定

<各班の課題>

- 1班:「庄和地域DE庄和生が農業奉仕」
- 2班:「庄和マップを作ろう!」
- 3班:「事故を減らすためには」
- 4班:「春日部の在来大豆を知ろう!!!」
- 5班:「桜台商店街を活性化させる」
- 6班:「庄和町活性化計画!」
- 7班:「庄和高校文化祭&庄和商店街の発展」
- 8班:「サイクルステーションを作ろう」
- 9班:「庄和を活気づけよう」

庄和高校生の課題設定のポイント

- ①南桜井駅前商店街の活性化
- ②住みよい街づくり
- ③庄和の知名度を上げる

～活動の流れ～

- 7月 進捗状況中間報告会
- 8月 市場調査・アンケート活動等
- 9月 文化祭での中間発表



各班の活動を中間報告としてポスターにまとめました。



文化祭でポスターを展示して活動の状況をお知らせしました。

～活動の流れ～

- 11月 庄和商工会へのプレゼンテーション（3年生）
- 12月 庄和商工会へのプレゼンテーション（2年生）



各班の活動状況を
パワーポイントに
まとめて発表しまし
た。



春日部市役所・
庄和商工会の
担当者も参加して
いただきました。

～各班の成果～



文化祭で地元商
店の出店や商品
の販売を行いました。
《1・7班》



春日部在来大
豆の大豆粉を使
ったバナナマフ
ィンを作成しま
した。
《4班》

～各班の成果～

最寄り駅の南桜井駅周辺に
ある桜台商店街を紹介する
ためのマップを作成しました。
《5班》



バザーで集
まったお金
で印刷代を
まかないま
した。
《5班》

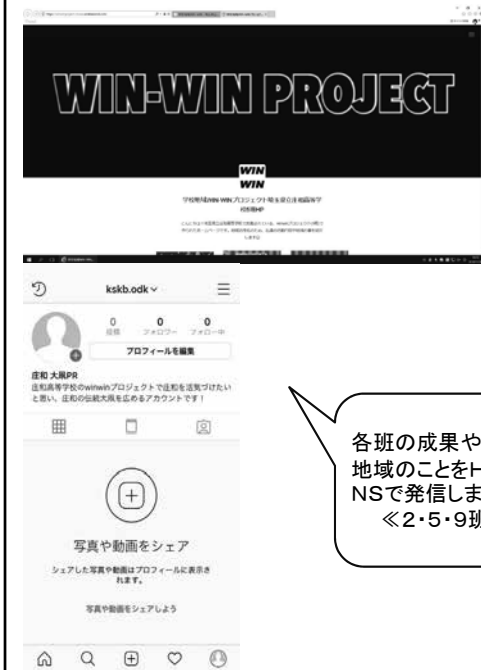
～各班の成果～



文化祭で行うバ
ザーのお知らせで
す。地域のみなさん
に協力していただき、
商工会にたくさん
集まりました。
《5班》



～各班の成果～



各班の成果や庄和
地域のことをHPやS
NSで発信しました。
《2・5・9班》

～まとめ～

- ①課題の把握
 - ・アンケートや地域への聞き取りなどを実施する場合はある程度の数を実施する必要がある。
 - ・生徒自身の思い込みにならない注意が必要。
- ②解決する課題の設定
 - ・課題の設定が広くなりすぎると活動の焦点がぼやけてしまう。
 - ・「こうすればこうなる」を発想させて、課題解決の手だてを考えさせる。
- ③地域との連携
 - ・生徒の動きは消極的、もっと積極的に地域と関わる必要がある。高校生が動く地域の方々が親身になって対応してくれる。
- ④活動のその後
 - ・自分たちが実践したことが、どのような影響を与えたかを検証することも必要。
 - ・できればもう一度PDACサイクルをまわす。そうすることで学びは深くなる。

埼玉県立鳩山高等学校

～ハトミライ☆プロジェクト～



埼玉県立鳩山高等学校
生徒会

2018. 3. 28
第1回ふくしまさくらの植樹風景

鳩山高校では…

“笑顔を咲かせる ボランティア”



2018. 7. 25～26 福島県震災復興ボランティア
2018. 8. 6 鳩山町納涼夏祭りボランティア

をに行ってきました。

ハトミライ☆プロジェクトとは？

【メイン事業】

「桜の植樹」を鳩山町で行い、
“はとやま・鳩高・ふくしま”の
3つが結びつくことで、地域の
活性化につなげていく。

ハトミライ☆プロジェクト

||

鳩高

みんなを
笑顔に！



はとやま ふくしま

☆これまでの活動①☆

6月 第1回打ち合わせ

(鳩山町役場)



2018. 6. 11
第1回打ち合わせ風景



2018. 8. 2 現地視察
NPOの方から説明を聞く生徒会役員たち

8月 現地視察

(石坂の森)



☆これまでの活動②☆

11月 モリ×モリウォーキング(石坂の森)

植樹に向けてのマップ作り
鳩山町コミュニティマルシェで
食堂・カフェ営業
鳩山町との包括連携協定



2018. 11. 17
モリ×モリウォーキング
(石坂の森)での現地視察風景



2018. 11. 8
成長した「ふくしまさくら」



2018. 11. 14 食堂カフェ営業風景



12月 植樹に向けたPR活動開始!

☆NPOの協力団体☆

特定非営利活動法人里山環境プロジェクト・はとやま

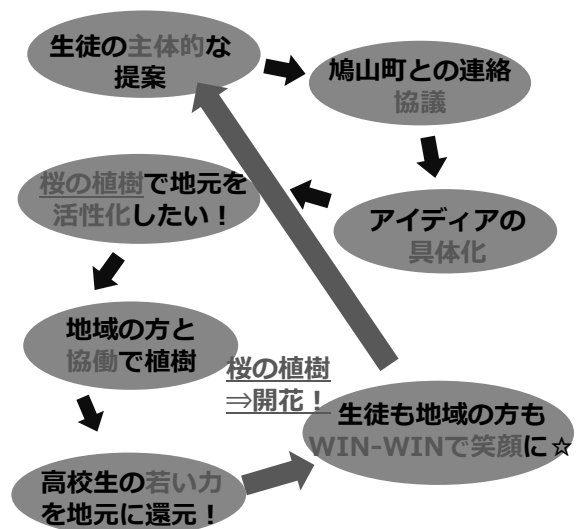
里山環境を環境資源及び住民共有の財産と考え、保全と活用を通じて得た有形、無形の成果を住民に還元しながら、まちづくりに寄与する。(HPより引用)

ふくしまサクラモリ プロジェクト

福島県の皆さんと共に育てた『ふくしまさくら』の苗木を、福島復興のシンボルとして、福島子どもたちの思いを込めたメッセージとともに、全国の自治体や企業、そして個人のみみなさまにお届けしています。
(HPより引用)

「笑顔😊」の循環イメージ

新たなアイデアの創出!



埼玉県教育委員会「学校地域WIN-WINプロジェクト」
芸術が栄える街づくり ～地域と吉川美南高校が
美(かな)でる芸術創造～

学校のWIN 吉川美南高校

- 吹奏楽部・美術部・書道部・放送部・軽音楽部・家庭科部の活性化
- 生徒会本部を軸に生徒会活動の活発化
- 学校の学びを社会で実践

すいちゃん@美南
校長の一部「よき川よき水川にちなんで本校マスコットキャラクター」

なまりん
西園寺イブ-ジキヤウの

※ このプロジェクトは「学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす取組を推進する。」埼玉県教育委員会の事業です。

吉川市

地域のWIN

- 学校との絆で社会総がかりの教育実践
- 若者のアイデアや取組で地域活性化
- 地域の力を学校教育で活用

第1の柱 「継続・コミット」

吉川市における芸術系のイベント(ジャズナイト、ロックフェスティバル、吉川市民文化祭、吉川市民祭り、「エフェムこしがや」への出演など)の参加(継続)にとどまらず、企画・運営にまでコミット(約束)する。

第2の柱 「創造・チャレンジ」

「吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業」が示すポイント「駅前ゾーンに文化的施設の誘致を目指し、吉川市の文化芸術拠点とします。」について、吉川市とともに芸術の街(まち)の創造にチャレンジする。

埼玉県立吉川美南高等学校
芸術が栄(さか)える街(まち)づくり
～地域と吉川美南高校が美(かな)でる芸術創造～

スタートアップ講演会(6/31・木)

吉川市長の中原氏を招き、「もう一步先へ(自分の強みをつかって社会貢献)」というメッセージをいただいた。

WIN-WINプロジェクトの参加団体(生徒会本部・芸術系部活動)の絆を深めた講演会

地域の演奏家から指導を受ける軽音楽部

その他...
 ○「FMこしがや」から技術指導を受ける放送部
 ○レストランの料理人から調理指導を受ける家庭科部
 ○デザイナーから指導を受ける美術部
 ○大学生から指導を受ける書道部...

生徒会活動の活性化 **部活動の活性化**

- 吹奏楽部・美術部・書道部・放送部・軽音楽部・家庭科部の活性化
- 生徒会本部を軸に生徒会活動の活発化
- 学校の学びを社会で実践

学校のWIN

美術部が、吉川市商工会青年部の依頼を受けて、「ジャズナイト」のポスターを制作

創作研究部が「第27回埼玉人権を考える集い」の大型人権看板のためのポスターを制作

学校の学びを社会で実践

美術部が、吉川美南駅東口ロータリーの看板に「まちづくりコンセプト」を表現した絵画を提供

放送部・軽音楽部・書道部・美術部・生徒会本部が市民文化祭・市民まつり等で、司会進行・演奏・運営補助

埼玉県立吉川美南高等学校
芸術が栄(さか)える街(まち)づくり
～地域と吉川美南高校が美(かな)でる芸術創造～

家庭科部が、地元料理人を指導者として招き、吉川市の名産の「なます」を食材にして、本校PTA・後援会の保護者の方々と一緒に、中華料理と洋食料理に挑戦

きっかけは、吉川市長中原氏「吉川美南高校も、なます料理やろうよ！」の一言から...

食文化に挑戦！
なます料理教室
in吉川美南高校

社会総がかりで教育実践
【「社会総がかり」関係団体】

- 埼玉県教育委員会
- 吉川市長
- 吉川ロータリークラブ
- フードカフェ レガメ
- 中国料理 萬万亭
- 吉川美南高校家庭科部
- 吉川美南高校PTA・後援会
- 吉川美南高校教職員

地域の力を
学校教育で活用

●学校との絆で社会総がかりの教育実践

●若者のアイデアや取組で地域活性化

●地域の力を学校教育で活用

地域のWIN

第2の柱「創造・チャレンジ」
高校生によるアイデア創出会議(10/23・火)

吉川市の掲げる『「吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業」が示すポイント「駅前ゾーンに文化的施設の誘致を目指し、吉川市の文化芸術拠点とします。」について、高校生たちがフレッシュなアイデアを創出し、吉川市の担当課職員に発表

各グループが、発想支援ソフト「IdeaFlagment2」を使用し、パソコン上でアイデアを出し合い、グループ化していく取組み

生徒のアイデアの中には、「まずは安心安全な街づくりが必要」、「老人の憩いの場が必要」、「運動や娯楽でお腹を空かせて、飲食店に呼び込むストーリー」、「お城を建てて、そのコンセプトに沿った街づくり」など

最後に、各グループが発表を行い、吉川市役所の担当課からアドバイスを

若者のアイデア
や取組みで
地域活性化

KJ法による
アイデア図

越谷西特別支援学校

～ICTでつなぐ地域きずなプロジェクト～

本校では、越谷総合技術高校と日本工業大学と連携して行いました。取組の内容は、高等部作業学習清掃事務サービス班（通称：C S班）での名刺やラベル・ポスター等の作成ソフトの開発と、自立活動での身体の動きや行動調整のためのフィジカルトレーニングシステムソフト（キネクトセンサーを使ったソフト）の活用です。

開発・改良に向けて

5月に顔合わせを兼ねた打ち合わせを行いました。この取組をとおして、連携学校では技術開発や社会貢献について学んだり、本校の生徒にとっては身に付けた技術がどのように社会の中で役立つのかを体験的に学んだりの機会につなげていくことが話されました。

話し合いの後は、早速パソコン室へ。ソフトの改良や開発に向けて、パソコンや現状ソフト等の状況確認をしました。皆さん熱心に研究し、それぞれの学校での取組の下調べを行っていました。

<プロジェクトの説明>



<仕様についての話し合い>

入力方法や操作性や活用するにあたりどのような機能が必要であるか、そのためにはどのようにするとよいか等、意見交換がされました。



<機材の状況確認作業>

現状の把握をする中で、改良点など具体的に確認していききました。



ラベル作成ソフト

文化祭の製品頒布で使用ラベルシールや商品ポップを作成するためのソフトとして開発していただきました。これまでは、1つずつ手作業で小さなものから大きなものまで作成してました。作成数も多く準備に時間がかり製品の作成に集中する時間が少なくなっており、その解決をしたいという声から発案されたものです。

夏休み中にソフトの試作品が完成し、本校のパソコンでの動作確認や調整を綿密に行い完成しました。本校の環境と開発環境との違いが大きく苦労があったようです。かなりの時間をかけて調整していただきました。

なお、このソフトは埼玉県工業高校生プログラミングコンテスト決勝大会で優秀賞（2位）を受賞しました。

<連携校との仕様の工夫>

操作画面はシンプルで大きく、デザインや配色を考えました。ドラックなどで文字を移動することができる操作性など、生徒にとってわかりやすく簡易で使いやすいものになりました。



<作成例>

1ラベル作成するだけで、サイズ違いのラベルが作成できます。シートの大きさに合わせて、複数枚作成されます。



本校のプリンタでの出力も調整でき、9月には使用に向けて最終確認ができました。



【連携校の声】
・操作する人の声を直接聞いて改良や開発ができることは、そのニーズに合わせる大切さを知ることができてよかった。



<作成の様子>

使い方をすぐに覚え、一人で扱うことができる生徒が多かったです。注文に応じて画像を探するなど自分でデザインを考え、オリジナリティあるシールを作ることができました。



【本校生徒の声】

- ・使いやすくて、すぐに使えるようになった。
- ・自分で作ったものが実際に使ってもらえて嬉しい。
- ・自分でいろんなデザインを考えられて楽しかった。

<納品・活用の様子>

作業学習の各班からの注文を受け作成しました。製品頒布で使用しました。



【本校生徒の声】

- ・きれいなシールができてすごい。
- ・準備の作業時間が減ってよかった。
- ・製品作りに時間をかけられるようになってよかった。
- ・いつもよりも他のことがたくさんできたと思う。
- ・みんなが使って喜んでくれるのが嬉しかった。



名刺作成ソフト

本校の生徒用パソコンには、ワード等のワープロ機能のあるものが入っていません。また、市販のソフトでは入力や操作が難しいということがあり、開発をいただきました。トレーニングモードでタイピング練習もできる仕様のため、パソコンを使った作業学習を続けることができています。

また「名刺作成サービス」の出店をし、地域での活動を行いました。接客、作成、納品まで、生徒が分担して行いました。

<作成の様子>

画面の右ボックスに入力すると、名刺該当のスペースに反映されるようになっています。自分で作った満足感と、渡したときの「ありがとう」の気持ちは、作業能力の向上に加えて大きな価値ある学習になっています。



納品時には、達成感や相手の気持ちを知ることができます。

<越谷総合技術高等学校文化祭>

開発チームの皆さんが、教室の装飾やパソコンのセッティングなどの準備をして、迎えてくださいました。



【本校生徒の声】

- ・たくさんの高校生がきてくれて楽しかった。
- ・少し緊張したけど、喜んでもらえてよかった。

【連携校の声】

- ・自分たちの取組がどのように活用されるのかわかり、次につなげたい。
- ・自分の学校の生徒との交流にもなりよかった。

<越谷市民まつり>

越谷ライオンズクラブさんからお誘いをいただき、地域の皆さんとのふれあうことができました。御挨拶でお渡しする名刺もCS班が作成しています。



【地域の声】

- ・皆さんしっかり対応ができて、素晴らしいです。
- ・本当に使える立派なものが出来ていてすごいなと思いました。
- ・生徒さんの取組がわかってよかったです。

<県庁オープナー>

小松教育長様をはじめ、埼玉県職員や地域の方々に来ていただきました。親子でいらっしゃるお客様も多く、小さな子供たちからの作成依頼に、優しい言葉で接する姿が印象的でした。



<本校文化祭>

開発チームの方も来校し、活動の手伝いに来てくださいました。このような交流も楽しみの一つになりました。

【生徒の声】

- ・いろいろな人の名刺を作るのは大変だったけど、楽しい。
- ・たくさんの人が喜んでくれて楽しかった。
- ・練習したとおりにできて良かった。
- ・失敗しないようにするのは、とても緊張した。頑張った。
- ・たくさんの人が来てくれて、びっくりしたけど楽しかった。
- ・とても忙しかった。仕事の大変さがわかった。
- ・少し緊張したけど、喜んでもらえてよかった。

フィジカルトレーニングシステムソフト

体の動きを学習していくシステムです。日本工業大学から機器やソフトをお借りして取り組んでいます。画面に映る動物を見ながら、タッチして消していきます。消す部位は「手」「足」「頭」から任意に設定できるので、取り組みたい動きや取り組む人の課題に合わせて調整ができます。連携校では、今後システムに関する研究成果を発表していく予定です。

なお、本校の作業学習の外部活動において、老人ホームの利用者様とのコミュニケーションツールとして、レクリエーション活動での利用も進めています。

<改良の様子>

子供たちがより意欲的に取り組めるよう、励みとなる効果音をつける、目標になるタイム設定があるとよいのではないかという意見が出されました。また、理学療法士から助言をいただき、システム内で評価ができるよう機能やモード追加する等が進められています。



【連携校の声】

- ・実際の現場に出て外部の人からの要望を実現するという経験ができてよかった。
- ・これまで知らない現場に行く機会が得られ、知ることができてよかった。
- ・異なる視点や分野からの提案や意見の交換ができてよかった。
- ・身につけた技術をどのように社会に生かしていくかを考える機会となった。

<取組の様子>

課題に合わせて取組方法を設定していきます。直接触れないということもなかなか難しいものですが、自分からいろいろな動きを行い楽しみながら取り組んでいます。また、体の動きだけではなく、二人で協力して行う等の調整にも取り組んでいます。



Kinect センサー

このカメラで動きをキャッチします

画面の様子です。
○(部位)が動物にふれると動物が消えます。



【本校教員の声】

- ・この連携がなければ、こういうものがあることを知ることもなかった。
- ・教材の広がりになりよかった。
- ・新しい技術を授業に取り入れる機会となり、視野が広がった。
- ・ねらいに対して違う形のアプローチとなるものとなり効果がある。

取組をとおして

違う視点からの教材提供が、子供たちの活動や取組の幅を広げることになりました。また、地域や同年代と交流することができ、互いの理解を深めることもできました。本校の生徒は、自分の力で名刺を作成することができ、自信が持てるようになりました。名刺作成は、地域から御注文をいただき、さらに経験の幅が広がっています。連携校にとっては、ソフトの開発、試用、改善をとおしてスキル向上や社会のニーズに応えるという経験につながられました。なお、このつながりをきっかけに、大学の他研究室との連携も始めることになりました。

提出日 平成30年12月12日

学校名 県立北本高等学校

1 学校概要

(1) 所在地

北本市古市場1丁目152番地

(2) 生徒数（平成30年12月1日現在）

普通科 527名

(3) 目指す学校像

「生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校」

(4) 学校概要

本校は、開校44年目を迎える北本市唯一の高等学校である。「生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校」を目指す学校として、北本市教育委員会支援の下、小学校・中学校等の相互交流事業を推進するとともに、地域ボランティアに積極的に取り組み、地域と一体になった教育活動を展開している。

2 内容

北本市・北本市教育委員会、市内関連機関等との地域連携による取組

3 目的

地域に関わる総合的な探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、探究の見方・考え方を深めて、適切な課題の発見と解決に取り組むことができる生徒を育成するため、以下の資質・能力を育成する。

- 地域に関わる探究の過程で、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける。
- 地域と自分自身との関わりから、問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報をもとに分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。
- 持続可能な社会の実現を目指し、探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、住みよい街づくりに積極的に貢献しようとする意欲・態度を育成する。

4 北本市の連携先及び連携内容

(1) 北本市教育委員会学校教育課

北本市小中高相互交流事業（K I S E P）による中丸小学校、市中学校体育連盟、市内4中学校との連携

(2) 企画財政部秘書広報課

北本市広報の本校コラム記事等（別添北本市広報誌参照）

(3) 企画財政部企画課：

北本市長と語る会、きたもとの未来をしゃべくり懇談会

(4) 市民経済部産業振興課：

商品開発（トマころクッキー）、北本まつり宵祭ねぶた山車制作等。

(5) 市民経済部環境課

市内ゴミ拾い活動（530プロジェクト）

(6) 総務部契約管財課

北本市公共施設マネジメント市民ワークショップ

(7) 選挙管理委員会

18歳選挙権・投票等への啓発取組への協力、明るい選挙推進協議会との座談会

(8) 社会福祉協議会

交通安全キャンペーンで「いったん止まっと」を駅街頭で配布（12月）

(9) 北本市ロータリークラブ




青年のつどい企画運営（3月）

(10) その他

鴻巣警察署1日警察署長・署員、埼玉中央たばこ商業協同組合「未成年者喫煙防止キャンペーン」、北本市市民文化祭芸術展出展

5 取組内容

(1) きたもとの未来をしゃべくり懇談会

月 日	内 容	場 所
平成30年 8月18日	北本市在住一般参加者、専門学校生、大学生、本校生徒等、約50名が参加し、「北本まちづくりワークショップ」を実施した。北本市長から市政運営状況を伺った後、小グループでKJ法による討議を行った。	北本市文化センター 会議室
生徒の探究活動		
<p>・市政運営状況を踏まえ、「人口減少に対応するためのリーディングプロジェクト」の推進策やそのことを的確に発信していくためのシティーセールス案について、KJ法によりグループ討議を行った。また、グループで考えた策や案を、全グループが発表し、参加者で共有した。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【市政状況報告】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【参加者による討論】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【グループ発表】</p> </div> </div>		

(2) 明るい選挙推進協議会との座談会

日時・場所：平成30年7月25日（水）・本校普通教室

内容：選挙広報の在り方や若者の投票率アップについて、座談会形式で意見交換を行った。

6 現在までの成果・課題（地域連携における課題、教育課程上の課題）

(1) 成果

「北本市長と語る会」や「きたもとの未来をしゃべくり座談会」では、市政や街づくりに関して高校生の視点から考え、一般市民と意見交換することができた。また、発表活動は、市長及び市職員へ提言する機会となり、参加した生徒の社会参画意識の高揚の一助となった。また、明るい選挙推進協議会との座談会では、若者の投票率を上げるための、選挙に関する広報の在り方やPRの仕方等を、北本市選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会の方々と意見交換し、政治を身近に感じる機会となった。

(2) 課題

今年度は、北本市と行っている連携を、生徒に「探究」を意識させながら行ったものの、参加人数に限られ、継続性も欠けている。これを学校全体の探究活動にするためには、各連携事業から「探究課題」にできるものを設定し、生徒が主体的に調べ、考え、話し合い、そして提言する連続的な活動へと再構築する必要がある。

提出日 平成30年12月14日
 学校名 県立越生高等学校

1 学校概要

越生高校は、古い歴史を持つとともに自然環境に恵まれた越生町西和田地区に、昭和47年に設立され、本年で47年目を迎える。創立以来、多くの卒業生を輩出し、地域社会の発展に大きく貢献してきた。

本校の目指す学校像は、「生徒一人一人の長所を伸ばし、社会で活躍できる人財の育成を目指す学校」となっている。生徒の持てる力を最大限に伸ばし、夢の実現に向け力強く支援している。

所在地 埼玉県入間郡越生町西和田600番地

生徒数 普通科296名、美術科110名、計406名

2 内 容

越生高校や生徒の出身中学校近隣地域の公共施設等における職業体験

3 目 的

- ・公共施設における職業体験を通して、社会性やコミュニケーション能力を高める。
- ・地域の課題を考え、主体的に地域社会に参画する態度を養う。
- ・働くことの大切さを学び、卒業後の進路や将来及び未来について考える契機とする。

4 連携先及び連携内容

越生高校近隣地域や生徒の出身中学校近隣地域の公共施設等での職業体験

5 取組内容

月 日	内 容	場 所
10月3日(水) ～ 10月5日(金)	公共施設等の職業体験	越生高校近隣地域や生徒の出身中学校近隣地域の公共施設等

6 現在までの成果・課題（地域連携における課題、教育課程上の課題）

- (1) 成果 学校生活の中にはない貴重な体験を通して、達成感と成功体験が得られた。
- (2) 課題 地元出身の生徒の引き受けとなっている施設があるため、生徒が希望する地域や職種の調整が困難であること

7 写 真

【介護施設にてシーツ交換】



【図書館にて書籍整理】



【消防署にて救命講習】



【乗馬クラブにて馬のブラッシング】



8 生徒の感想

【消防署での職場体験】

1 日目ははじめてだったのでかなり緊張していましたが、隊員の皆さんが丁寧に教えてくださったので、なんとか終わることができました。楽しかったですが、慣れるのには時間がかかってしまいました。

2 日目の午前は道具説明とロープ渡り訓練、午後は放水訓練をしました。この日は実際に隊員の皆さんが現場で使用している道具を見せてもらったり、実際に行っている訓練を見せていただきました。僕が一番記憶に残っているのはロープ渡りです。これは川の向こうなど、普通では向かうのが困難な場合に使われる方法で、ロープに吊るされながら救助に向かうというものです。僕も体験したのですが、簡単なようで体力を使うものでした。

3 日目は午前に救命講習、午後にははしご車体験を行いました。午前中に参加した講習では倒れた人に人工呼吸や心臓マッサージをして蘇生させる方法を学びました。いろいろと手順がありましたが、戸惑うことなくクリアできました。午後は、はしごが30mのビルはしご車に乗り、上から越生を見渡しました。特に高い所が苦手なわけではなかったので思う存分上からの景色を堪能しました。

【乗馬クラブでの職場体験】

ここでは、初心者から上級者までの乗馬教室を始め、馬主さんから預かった馬の世話をしたりしています。馬が気持ちよく過ごせるように馬屋の掃除などに気を配ります。私たちが3日間主に行った仕事は雑草抜きや枝ひろいなどの馬場の整備と、馬屋の掃除や馬のお皿洗いなどです。また、馬のブラッシングなど、馬と直接触れ合う仕事もお手伝いさせていただきました。それらの仕事をこなしていくうちにわかったことは、素早くやったほうが良い仕事と時間をかけたほうが良い仕事があるということです。馬のお皿洗いや馬屋掃除などは手早く、馬のブラッシングや犬のお散歩などの生き物と触れ合うときは時間をかけて接していました。

職員さんは時間の少ない中で、あれは手早く、これは時間をかけて・・・などと考えながら仕事をしていてすごいな、と思いました。そして馬屋そうじでは、馬の性格はトイレの散らかし方でわかるということを知りました。排せつ物をいちいち場所をかえ、そのうえ足でふみちらす子や、きちんと決まった場所でトイレができる子など、その馬の性格によってさまざまなのだそうです。

最後に、私は3日間、乗馬クラブで仕事を手伝わせていただいて改めて命を守ることの大変さを感じました。

平成30年度
「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」
実践報告書
埼玉県教育委員会

平成31年3月発行

編集 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6979

FAX 048-830-4964

E-mail a6975-05@pref.saitama.lg.jp

WIN
PROJECT
WIN